

渋谷教育学園幕張中学校・高等学校

渋谷から世界へ、卒業生と先生が語る その魅力!



渋谷幕張中学・高校の魅力について、渋谷中高と大学受験グノーブルの卒業生でもあり、現在、東京大学文科Ⅲ類1年生の草田里美さん、草田さんの入学以来6年間、学年担当、特に高校3年ではクラス担任をされた望月優里先生、入試対策室の永井久昭室長の3名にお話をうかがいました。



永井 久昭室長 (右) 望月 優里先生 (左) 草田 里美さん (中央)

先輩たちの言葉は宝

**望月:** 草田さんとは入学以来6年間持ち上がりでした。彼女たちの学年はたいへん意識の高い生徒たちが多く、クラスメイトの頑張っている姿を見て、自分も頑張らなくては、とお互いを高めあうような関係でした。草田さんのクラスでは東大に7人合格しましたが、友達が頑張っている姿の影響が大きかったのではないのでしょうか。

**草田:** 確かに、私のクラスには全国模試で1位になった男子や日本代表団として高校模擬国連国際大会に参加した女子がいたりして、すごく刺激になっていました。

**望月:** ここ最近の進学状況を見ると、海外大学への進学が増えています。かつては最高峰の大学として東大を目指すというイメージがありましたが、今の生徒たちは東大も選択肢の一つで、海外大学も積極的に視野に入れるようになっていきますね。

**永井:** 以前、進学ガイダンスでイェール大学の入試担当者が学校に来て説明したときは、イェールに進学した卒業生も来てくれていっしょに説明して

くれたことがありました。

**草田:** 同じ学校で学んだ先輩からお話をうかがえたので、やはりすごく印象が違いました。帰国生だけではなく、自分でも行けるんだと感

じることができたことを覚えています。  
**望月:** こうしたガイダンスで先輩たちの話を聞くと、生徒たちの雰囲気が一気に変わってきます。卒業生の言葉は宝ですね。  
**草田:** 私は夏までなかなか模試で結果が出なかったのですが、それでもあきらめちゃいけないということ、機会があれば後輩たちにも伝えたいと思っています。かといって、学校生活もおそろかにしないでほしいとも伝えたいですね。

**望月:** 女子は現役合格にこだわるものが多く、東大は目標にしづらい面もありますが、現役で東大に入った先輩の話や話を聞くと、よし自分もって思ってくれるはずですよ。

共学校ならではの渋谷生の強さ

**永井:** 東大合格者の多い学校は、ご存じの通り男子校が多い傾向があります。そうした学校と本校のような共学校との大きな違いは現役志向が強いということです。現役での進学者は7割を超えています。さらに女子だけで見ると8割を超えていて、女子の

浪人は20人程度しかいません。  
**草田:** 女子でも国立を目指す男子と混じって最後まで切磋琢磨できるので、ますます頑張れます。

**永井:** 男子校は同性ばかりでのびのびしている反面、入学後しばらくの間は幼さが出てしまうこともあるようです。渋谷の場合は異性の目があるからなのかもしれませんが、中1であっても幼い行動というのはあまり見受けられないように思います。

**望月:** 例えば中学生の頃は、合唱祭などの校内行事では女子の方が男子を引っ張り、男子も頑張らざるをえないようなことが多いです。ところが、高3になると男子の「第一志望は決してゆずらない」という強い姿勢を見て、女子もそれに刺激されて頑張る。このように男子と女子の発達段階に応じて、お互いに補完しあいながら、いい結果につながるのが共学校の強みだと思います。

東大受験とグノーブルについて

**草田:** 東大を目指すようになったのは高校に入ってからです。2人の兄が受験している姿を見て、自分もそろそろやらなくちゃって思うようになりました。それでも最初は東大に対する気持ちは、あくまでも憧れだったのですが、クラスメイトの様子などを通してそれがどんどん現実の目標になっていきました。

**望月:** 受験勉強を応援する対策としては、教科的な面では普段の授業に加えて、夏季に講習を70講座程度開

講しています。また、進路面談を通して受験期間の精神的なケアや個人的な関係を大切にしています。

**草田:** 私は勉強を続けているうちに、英語の長文を読む力をもっとつけたいと思い、高2の時にグノーブルの体験授業に行きました。それがとても充実した授業だったので通塾を決めました。学校が終わってから塾の授業が始まるまであまり時間がなかったり、復習もきちんとなしなかつたりと大変なことも多かったのですが、テンポの速い充実した内容は毎回楽しみでした。その後、数学や東大国語についても受講させていただきました。  
**永井:** ダブルスクールというのは本当に大変ですよ。アンケートによると、単科講習を含め一度でも塾に通ったことのある渋谷の生徒の割合は、高校1年生で17%、2年生で40%、3年生で60%未満です。この数字は、他の進学校にくらべて相当少ないようです。

東大1年生の学び

**草田:** 東大に入学して最初の春学期では認知科学の授業がとても楽しかったです。秋学期は、教育に興味を持っていますので、現代教育論を楽しみにしています。将来、もともと興味があった法学系に進むかどうかは自分でもまだわかりません。でもそこが東大の魅力でもあるんです。その分野のプロフェッショナルの方の話を聞いた上で、自分が何になりたいかを考えることができます。その点では教育や教養もしっかり学べることができる文Ⅲに入ってよかったなと思います。このメリットを最大限活用しようと思います。

**永井:** 大学の中で真の目標を見つけられるというのは東大の魅力ですね。

**草田:** あと、私は高校のとき、人間の感情についても興味があり、「涙」をテーマに「自調自考論文」を書きました。当時、東大の生協で参考文献を購入したのですが、東大に入学した後その本を執筆した教授の授業を受けることになり、感慨深かったです。

**望月:** 「自調自考論文」というのは、渋谷の教育目標である「自調自考」の集大成として高校1年～2年の2年間かけて書く論文です。高校時代に真剣に考え抜いたことが、東大に学ぶ今につながったということですね。

中学受験について

**草田:** 中学受験の頃を思い返してみると、当時はまだ幼かったのか勉強を苦痛に思うようなことはまったくありませんでした。みんなと授業を受けるのが楽しくて、長時間机に向かっても平気でした。ただし、渋谷の入試問題は当時から記述が多くて、とても難しかったです。

当時、算数は得意だったのですが、大学受験の数学は苦勞しました。反面、社会科の知識はその頃覚えたものが一番根本になったので、その頃にきちんとやっておいてよかったなと思います。特に日本史ですね。中学受験の学習が大学受験の基礎になったし、そこで好きになったからこそ文系を選んだきっかけにもなりました。  
**望月:** 渋谷の入試問題で記述を重視するのは、「自分で考えることができる」ことを大切にしているからです。国語科ですと、基礎的な語彙力を身につけるための漢字や知識から始まり、たくさん文学的文章を読んでさまざまなものに興味・関心を持っているか、そういうところを重視しています。他の教科でも同じように、日常の経験の中で考える力を育ててほしいですね。

**永井:** 考える力が問われる入試問題に対応するためには、まずいろいろなことに興味を持つということが本当に大切ですね。単に勉強して知識を増やすだけではなく、家でのお手伝いなどの日常の経験から学べる事柄も重要です。

例えば、真水と濃い食塩水の入ったコップがあって、それを見分けるといふ問題があると思います。塾や学校で教わる方法では、沸騰させたり、さらに食塩を溶かしてみたり、浮力を

みるという解答があるでしょう。

しかし生活の中から答えを出すこともできます。塩分の強い温泉に行った経験のある子は、石鹼が泡立たなかったことを思い出して、石鹼を溶かしてみるなどの解答を書くかもしれません。こういうのは光る解答ですよ。

ぜひ本番の入試ではいろいろ頭を働かせて解答してほしいと思います。